

No. 1090

美と技の競演

— 中日カップ国際選抜体操 —

1974年度中日カップ国際選抜競技大会は、11月30日から2日間にわたって名古屋市愛知県体育館で開かれました。

1日目女子平均台。3年前13才ではじめて姿を見せたソ連のドロノフ。“天才少女”とうたわれた中日カップで優勝したドロノフの演技は腰痛で欠場の女王ツリシチュワに見守られて慎重そのもの。しかしバネのある演技は成長を見せさいさき良いスタート。去年の中日カップの覇者日本の堀出。得意の跳馬では超ウルトラCのダイナミックな演技。

日本の新鋭梶山は1日目の3種目に安定した演技でトップそして迎えた2日目の第1種目床。3回ひねりやタンプリングを決め29.65をマークしトップを独走。2位で追いあげるソ連のエースアンドリアノフは最後の種目鉄棒で逆転を狙う力強い演技フィニッシュでは2回宙返りを決め29.65をマークしたものの0.05の差で梶山に及びませんでした。今年度チェコ選手権個人総合1位、ドロニヤコワの華やかな段違い平行棒。

場内は最高潮興奮のるつぽに包まれました。モントリオールオリンピックを目指す24人の選手が2日間にわたってくりひろげた美と技の競演。女子は3年ぶりにソ連のドロノフが男子は今回初出場の梶山がそれぞれ中日カップを手に入れました。

髪

四人のヘア・デザイナーが黒髪に女の美しさをたくしてくりひろげるビューティーショウ。

あざやかに二丁のハサミをあやつり、芸術的な世界を創り出す大島満治先生。今日のテーマは「プロカットによる美の創造」——切ることは誰にでもできる、我々はデザインしなければいけない——とおっしゃる。

「秋・魅惑・可憐」をテーマに登場した真野博先生——今はもう秋、誰もいない海……秋の詩にのせてビックフアッションを披露。堀部美行先生は——不景気な時代を楽しくおしゃれして、女らしいものをうち出して行きたい——と「復活した三十年調」がテーマ。モダンなスタイルで登場の信竜淳二先生は「黒髪のすべて」をテーマに新日本髪を発表。

日本を代表するビューティーアーティストのすばらしい作品に、女のためいきが聞えるようです。